

第3回全国家庭教育支援研究協議会
2012.2.12.(日)

親子の絆・地域の絆
～地域で育てる社会の宝～

内田 伸子
(お茶の水女子大学)
uchida.nobuko@ocha.ac.jp

スクリプト

I. 想像力の発達

イメージの言語化⇔3.11を乗り越える

II. 学力格差は幼児期から始まるか

共有型しつけ・子ども中心の保育

III. 子どもの育て方は経済格差を是正する鍵

地域で育てる社会の宝

原発事故に被災した子どもへの影響

1. 身長や体重の発達速度曲線 (velocity curve) 平成23年10月の発達速度は平成22年10月の4分の1
「外で遊べない」「大人たちを見ていてわがままは言えない」⇨被災下でのストレスは子どもの身長や体重の伸びを止まらせた！
2. 東京や埼玉へ一人で疎開した中高生：
⇨学習の進捗が問題ではない。コミュニケーションスタイルや対人関係の持ち方の違いから、友だちができず不登校になる。

被災地の子どもたちのけなげさ

1. 大人たちが悲しんでいるのに、笑ったらいけないと、支援物資の絵本をもらった喜びをひたかくしにする幼児たち
2. 避難所で大人たちが働いているのを進んで手伝う児童たち
3. 津波被害の範囲外であった福島の中学校生は「安全教育3ヶ条」
①想定を信じるな ②ベストを尽くせ
③必死に逃げろ
を思い出しコミュニティ全体を救った

けなげさの陰に子どもたちの**忍耐**がある

1. 震災＋原発事故は子どもたちの成長発達に大きな影響を与えている。
2. 子どもたちは癒されぬ悲しみに耐えている。大人以上に子どもは環境変化に敏感。

⇒父母と妹を亡くした愛海ちゃん(4歳児)
会えなくなった父母妹に手紙を書いた。

天声人語(朝日新聞2011.12.18.)

「年末恒例の報道写真展」展示作の半数近くが震災関連過去と括るには戦列すぎる恐怖や悲しみが、時を止めて並んでいる。

▼会場入り口で迎える読売新聞東京本社の「ママへ」は、両親と妹を津波で奪われた女の子の長尾を捉えた。覚えてたの時に母への思いをつづるうち、4歳はノートに突っ伏して眠ってしまう。撮影した立石紀和記者(39)はこの子の家に通い、一緒に遊び、ここまで寄れる関係を築いたという。



(3月22日午後、岩手県宮古市で)立石紀和撮影
平成23年3月31日(木)読売新聞朝刊1面掲載

(読売新聞提供)

震災から1週間後、立石紀和氏(読売新聞写真部)は、高台まで被害を受けた宮古市の千鶴(ちけい)地区に取材に訪れた際、昆 愛海(こん まなみ)ちゃんと出会い、愛海ちゃんの祖母から、愛海ちゃんと2歳の妹、両親の一家4人が家ごと流され、愛海ちゃんだけが助かったと聞いたそうです。

写真は、その後、その境遇と、笑顔が少なかったことが気になり、時間を見つけては愛海ちゃんを訪れるようになった立石氏が愛海ちゃんと出会って5日目、愛海ちゃんが、当時行方不明だったご両親に向けて手紙を書きながら眠ってしまった様子を撮影したものです。この記事に対して新聞への投稿の他インターネットへの書き込み等、多くの方から反響がありました。



3月22日に愛海さんがノートに書いたご両親への手紙
(読売新聞提供)

「ママへ。いきているといいね。おげんきですか。
「おりがみとあやとりと ほんよんでくれてありがとう」
「ぱぱへ。あわびとか うにとか たことか こんぶとか
いろんのおとてね。」

内閣府
「家族の作文コンクール」
【特別賞】を受賞した
まなみちゃん(4歳)の作文
3月22日に
愛海さんがノートに書いた
ご両親への手紙



3月22日に愛海さんがノートに書いたご両親への手紙
(読売新聞提供)

「ママへ。いきているといいね。おげんきですか。
「おりがみとあやとりと ほんよんでくれてありがとう」
「ぱぱへ。あわびとか うにとか たことか こんぶとか
いろんのおとてね。」

書くこと・考えること・生きること

手紙を書く⇔会話

愛海ちゃんは父母と会話している。

少しずつ、あの日のことがわかってくる。

★愛海ちゃんの語彙が少しずつ増え、自分の思いをことばで表現できるようになるにつれて、あの日のことが理解できるようになるだろう。

決して受け入れられはしないけれど、納得することはできないだろうけれど、受け留めて先に進むことができるに違いない。

⇒ 想像力の発達が鍵!

想像力 ↔ 生きる力

極限状況下での内面化の傾向が

著しくなる ↔ 想像力

フランクフル

『夜と霧 —ドイツ強制収容所の体験記録—』

霜山徳爾訳(1965)みすず書房

111-112頁

想像の素材は経験(体験)

想像は創造の泉

- 未来を思い描く素材 = 経験(体験)
- 想像 ≠ 経験

経験を複合したり脈絡をつけるとき
何か**新しいもの**が付け加わる



創造の可能性

2歳5ヶ月

うさタン、
ピョンピョン



イテェー、
ころんだよ、
石(絵の石をさす)
ころんだ



エーン、エーン、
うさタン、えーん
(顔に手をあて
泣き真似をする)



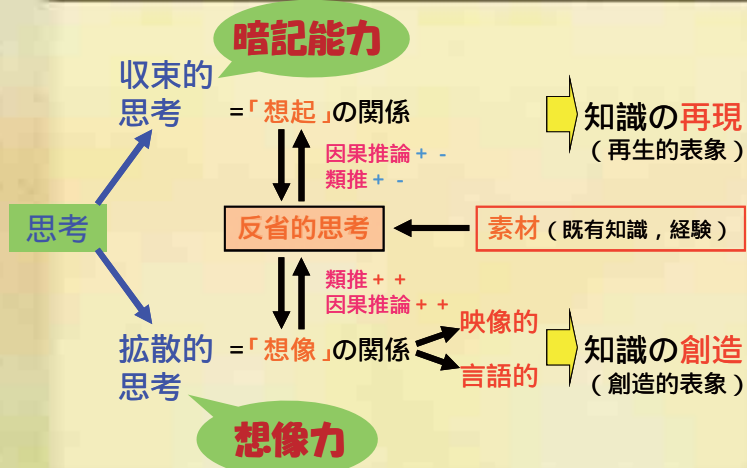
3歳8ヶ月

うさこちゃんが、
お月さんを見ながら、
楽しくダンス
していました

上ばかり見て
おどっていたので、
石ころにつまづいて、
水たまりにしりもちを
ついてしまいました

頭から、水ぬれに
なった。
うさこちゃんは
泣いてしまいました

「暗記能力」と「想像力」の関係



子どものつぶやき

「ゆうあけこあけのかたまりだ！」
3歳男児

「ここで雲をつくってたのか！」
4歳女児

「おかあさんはおばあちゃんから生まれたんでしょ。じゃあ、お父さんはおじいちゃんから生れたの？」
5歳男児

「(白と黒の)パンダはおめでたくない動物なんだね、きっと」
6歳女児

全労済編 『最近子供がふともらしたいとおしい“ひと言”は?』
河出書房新社 1998より

語る力の発達

「談話の文法」(物語スキーマ)
談話・文章の時間的展開を構成する

5歳後半～

◆事件・出来事を語る

- ①起承(転)結構造
- ②常套句・常套の演出技法

「星を空へ返す方法」[M.T.5歳10カ月]

7月15日はうさぎさんの誕生日です。今日は7月15日、うさぎさんの誕生日だから森の動物たちが集まってきました。そして、みんなで食事をしているときにケーキの陰から星が出てきました。星はみんなに言いました。「ぼくね、空からおっこっちゃったの。だからね、ぼくをね、空に返して。」と言ったら、みんなはびっくりしました。「空に返すって?」「そうさ、ぼくは空の星さ。」星?と、みんなはびっくりしました。

そこで、象は言いました。「おれにまかせてよ。」と、象はその星を自分の鼻に入ると、勢いよく飛ばしました。それでも星は、おっこってしまいました。そしたら、こんどはみんなで相談をして、うさぎが言いました。「そうだよ、ながーい笹を持ってこようよ。それに星をのせてあげてさ、そしてさ、また、その笹をさ、伸ばしてさ、空までさ、送ってあげるのさ。」とうさぎが言うと、みんなは「そうしよう。」と言って笹をとってきました。

そのなかでも一番笹が長いのをとってきたのはネズミでした。ネズミは、手がゆらゆらになって、すごく長い笹を持ってきました。みんなでそのさきに星をのせると、土の中に埋めて一日待ちました。そうすると、その笹は、1日だというのに、ぐんぐん伸びて空に届きました。そして、星は空に帰ることができました。

そして、その誕生日がおわったあと、みんなが、家で空を見ると、キラキラ光ってる、とてもきれいな星がありました。みんなはその光ってる星を、きっと落ちてきた星だと思ったのです。
おしまい。

「星を空へ返す方法」エピソード分析

- I. うさぎさんの誕生日会 登場人物の集合
- II. 食事場面 ケーキから星 = 事件
 - 解決の試み 1 象
 - 失敗 解決の試み 2 相談
 - III 解決の試み 3 うさぎの提案
 - 最長の笹の運搬 ネズミ
 - 成功! 《みそっかすが解決の鍵を握る》
- II. 事件の解決 星が天に帰れた
- I. 誕生日会の終了 一同がほっとする

PISA調査 OECD(経済協力 開発機構)



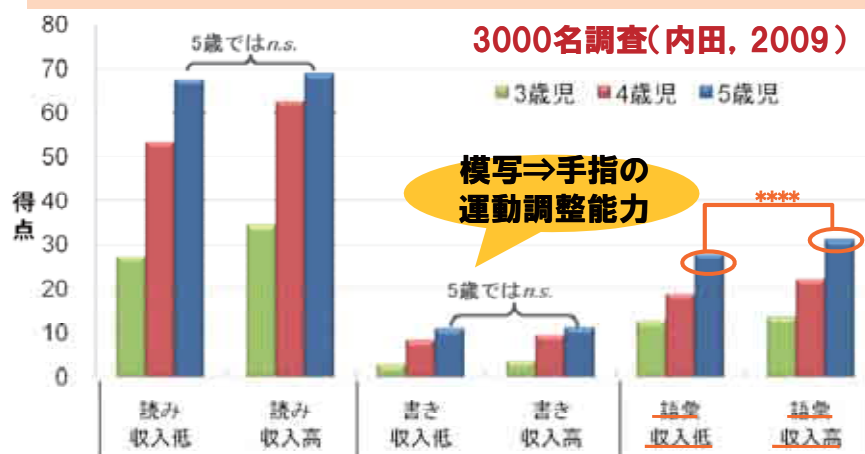
課題⇒論理・記述力

1. 国際学力比較調査(PISA調査)
2000年・2003年・2006年・2009年;高1生
情報を読み取り, 論証し, 論述する力の欠如
2. 全国学習状況調査
2007年・2008年・2009年;小6・中3生
○基礎的・基本的な学習内容はおおむね理解
△課題は・・・活用力の欠如
知識・技能を活用して, 思考し, 表現する力に課題がある!
3. 2010年;課題＝論理力・記述力改善せず

学力格差はいつから?

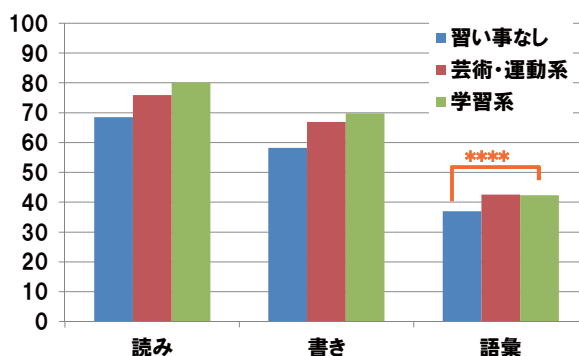
- ◆「学力格差は経済格差を反映している」
(教育社会学の知見、マスコミなど)
- RQ: **経済格差は子どもの発達や親子のコミュニケーションにどんな影響をもたらしているか?**
⇒**幼児のリテラシー習得に及ぼす社会文化的要因の検討**
—**日韓中越蒙国際比較研究**—

リテラシーの習得に経済格差は影響するか？



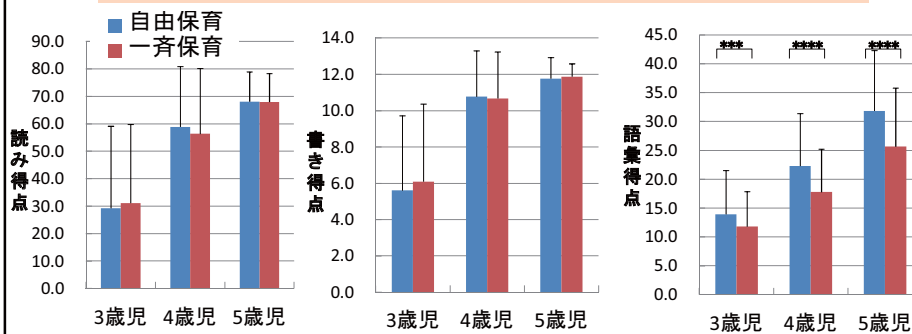
- ①読みと書き＝模写能力においては5歳になると家庭の収入による差はなくなる。
- ②語彙能力に収入による差が顕在化する(高>低)。

習い事の種類の読み・書き・語彙との関連



語彙力: 習い事なし < 習い事あり
(芸術・運動系 ≒ 学習系)

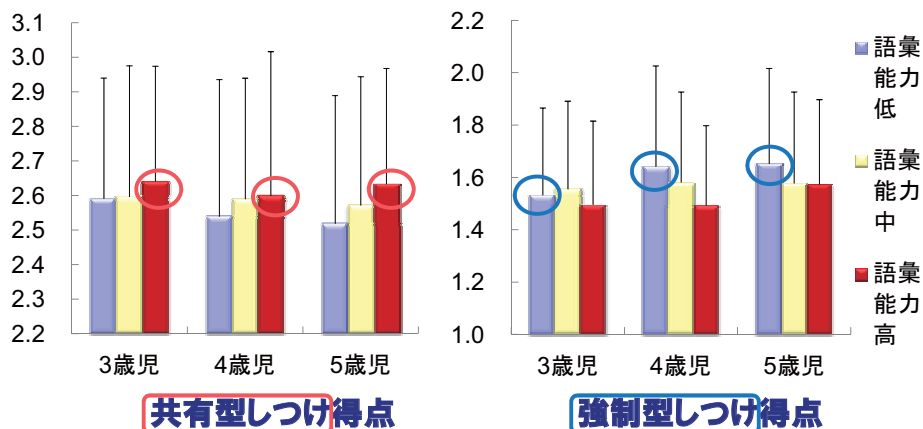
保育形態による語彙力の差



● **語彙力：自由保育 > 一斉保育**
 子ども中心の保育、自由遊びの時間が長い
 幼稚園や保育所の子どもの語彙得点が高い

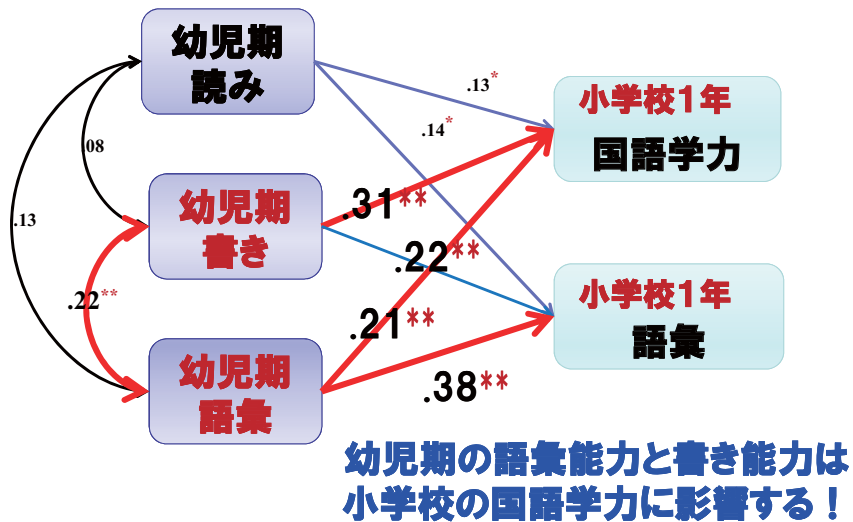
しつけスタイルと語彙能力

共有型しつけ vs. 強制型しつけ



語彙得点が高い子どもは、**共有型しつけ**を受けており、
 語彙得点が高い子どもは、**強制的しつけ**を受けている。

幼児期のリテラシー能力と小学校1年での 国語学力と語彙力の関連



小学校の学力への影響因

1. 幼児期の語彙能力と書き能力は小学校の国語学力に影響する。

2. 幼児期のしつけスタイルは小学校の国語学力に影響する。

⇒「子ども中心の保育」&「共有型しつけスタイル」は語彙得点や国語学力の成績に影響していることが明らかになった。

★強制型しつけ 語彙や国語の成績が低い！

共有型 vs. 強制型

RQ:母親の働きかけ方の違いの何が
子どもの語彙力に影響するのか？

(高所得層、高学歴、専業主婦)

- ① **ブロックパズル課題場面**(正解や難易度の違いがある)での母子のやりとりを観察した。
- ② **絵本の読み聞かせ場面**(正解があるわけではない)での母子のやりとりを観察した。
『きつねのおきゃくさま』

共同の問題解決

- **手続き・材料** 色と形が一致した6種類のブロック
課題シート2種類



易しい課題

難しい課題

②絵本の読み聞かせ場面の母子のやりとりを観察録画。
『きつねのおきゃくさま』 母子になじみのない絵本



ひよことあひるとうさぎを太らせて食べようとしていたきつねしかし、純粋な3匹と一緒に暮らすうちに心は変わり、最後はおかみから3匹を守って死んでしまう。

まるまる ふとった ひおこと あひると うさぎは、にじの もりに ちいさい おほかをつくった。そして、せかいいち やさしい しんせつなかみさまみたいなの そのうえ ゆうかんな きつねのために なみだを ながしたとき。 とっぴんばらりの ふう。

共有型で、なぜ語彙力が向上するのか？

—絵本共有場面と問題解決場面—

■ 共有型

- ✓ 考える余地を与える
- ✓ (援助的) サポート
- ✓ 子どもに敏感で子どもにあわせて柔軟に調整する

✓ 主体的な探索や自律的に考えて行動する

語彙力 ↑



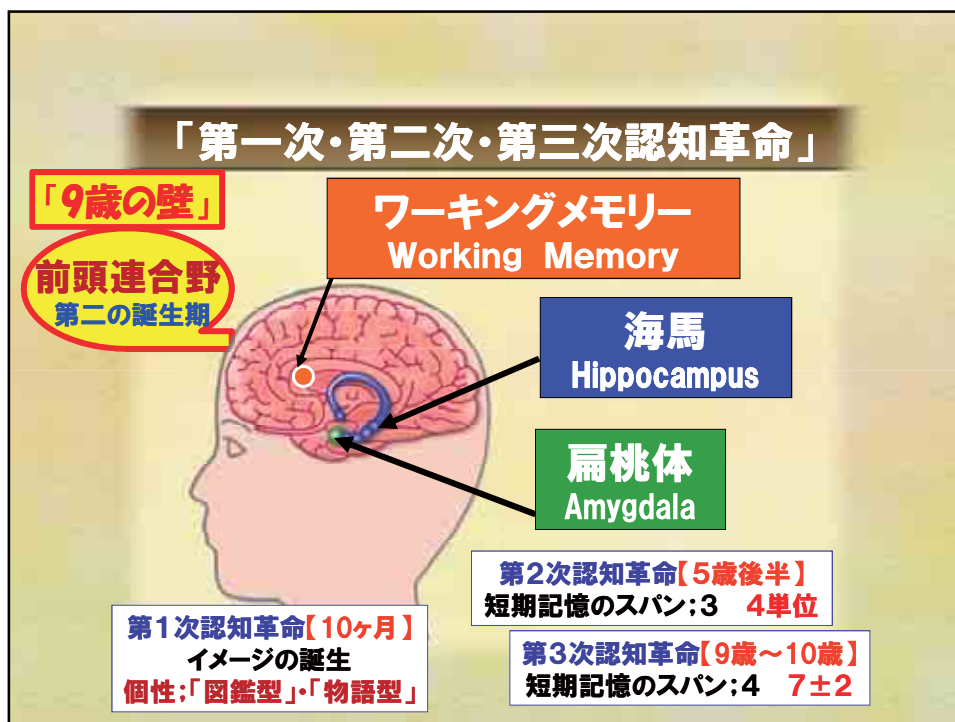
■ 強制型

- ✓ 考える余地を与えない(指示的)トップダウン介入
- ✓ 過度な介入、情緒的サポートの低さ

✓ 主体的に探索せず、他律的行動(親の指示を待ち・顔色を見ながら)

語彙力 ↓





叱られながらやった勉強は身につかない

a. 大脳辺縁系(扁桃体と海馬): 4歳頃
b. 前頭連合野のワーキングメモリー: 5歳後半

×扁桃体で緊張・不快を感じると
⇒海馬で失敗例が蘇り他のことを考えられなくなる⇒
冷や汗が出たり頭が真っ白になる

○扁桃体が快(面白い・楽しい)を感じると
⇒ワーキングメモリーに情報伝達物質が送られ海馬を
活性化し、情報を記憶貯蔵庫にどんどん蓄えること
ができる⇒「好きこそものの上手」

子どもを伸ばす援助・ことばかけ

1. 子どもに寄り添う⇔安全基地 <信頼関係>
2. **その子自身の進歩**を認め誉める⇔他児と比べない。
3. 「生き字引」のように余すところなく定義を与えない。
4. 「裁判官」のように「判決」をくださない⇔禁止や命令ではなく「**提案**」を！
5. **子ども自身が考え、判断する余地を残すこと。**
⇒**自律的思考力** **そして 創造的想像力！**

家族・地域で子どもを支えよう

子どもたちをどう支えたらよいか？

⇒家族の絆・地域の絆

子どもも人格をもつ存在として
共有型しついで、
子どもの主体性を大切に！

★教育⇔共育⇔協育

子育ては地域社会と親の連携協働の
営み！